平成24年 上半期

火災・救急統計

松山市消防局

目　　次

第１　火災の概況 ―――― 1

1　火災件数 ―――― 1
2　死傷者 ―――― 1
3　出火原因 ―――― 2
4　損害額 ―――― 3
5　近年の火災状況 ―――― 3
6　地区別火災件数 ―――― 4
7　住宅用火災警報器の奏功事例 ―――― 5, 6

第２　救急の概況 ―――― 7

1　救急出場件数・搬送人員の状況 ―――― 7
2　医療機関別搬送状況 ―――― 8
3　事故種別・傷病程度別搬送人員の状況 ―――― 8
4　応急処置実施状況 ―――― 9
5　地区別救急発生状況 ―――― 10

火　災

第１　火災の概況

松山市における平成２４年上半期（１～６月）の火災概況は、火災件数６４件、焼損棟数５８棟、死者４人、負傷者９人、損害額４，３３１万１千円となっています。

１　火災件数

火災件数は６４件で、前年同期（９２件）と比較すると２８件減少しています。火災件数を火災種別ごとにみると、車両火災件数の増減はありませんが、建物・その他・林野・船舶火災件数は減少しています。また、焼損棟数は５８棟で前年同期（６８棟）に比べ１０棟減少しています。

区分 火災種別	平成２４年	平成２３年	増　減
火　災　件　数	64	92	▲ 28
建　物　火　災	43	44	▲ 1
そ の 他 火 災	17	36	▲ 19
車　両　火　災	4	4	0
林　野　火　災	0	7	▲ 7
船　舶　火　災	0	1	▲ 1
航 空 機 火 災	0	0	0

※その他火災とは、田畑の雑草、ごみ等の燃えた火災をいいます。　▲は減少

区分 焼損程度	平成２４年	平成２３年	増　減
焼　損　棟　数	58	68	▲ 10
全　　焼	9	11	▲ 2
半　　焼	1	3	▲ 2
部　分　焼	19	19	0
ぼ　　や	29	35	▲ 6

▲は減少

２　死傷者

火災による死者は４人で、前年同期（２人）と比較すると２人増加しています。また、負傷者は９人で前年同期（１３人）と比べ４人減少しています。

区分 死傷者	平成２４年	平成２３年	増　減
死　　者	4	2	2
負　傷　者	9	13	▲ 4

▲は減少

３　出火原因

出火原因を件数順にみると、「こんろ」が１２件（全体の１８．８％）、「放火」が７件（同１０．９％）、「たき火」「たばこ」が各５件（同７．８％）となっています。 また「放火火災」は１１件で全体の１７．２％を占めています。

区分 出火原因	平成２４年	平成２３年	増　減
こんろ	12	10	2
放火	7	14	▲ 7
たき火	5	15	▲ 10
たばこ	5	10	▲ 5
電灯・電話等の配線	5	4	1
ストーブ	5	3	2
放火の疑い	4	4	0
火あそび	4	4	0
マッチ・ライター	3	1	2
電気機器	1	1	0
衝突の火花	1	0	1
排気管	0	2	▲ 2
配線器具	0	2	▲ 2
灯火	0	1	▲ 1
焼却炉	0	1	▲ 1
取灰	0	1	▲ 1
その他	6	9	▲ 3
不明・調査中	6	10	▲ 4
合計	64	92	▲ 28

▲は減少

※「放火火災」とは、出火原因が「放火」及び「放火の疑い」の火災のことをいいます。

４　損害額

火災による損害額は４，３３１万１千円で、前年同期（８，３０５万円）と比較すると３，９７３万９千円減少しています。

区分 種別	平成２４年 （千円）	平成２３年 （千円）	増　減 （千円）
損　害　額	**43,311**	83,050	▲ 39,739
建　　物	**35,106**	78,758	▲ 43,652
車　　両	**7,181**	3,027	4,154
そ　の　他	**1,024**	560	464
船　　舶	**0**	705	▲ 705
林　　野	**0**	0	0
航　空　機	**0**	0	0
爆　　発	**0**	0	0

▲は減少

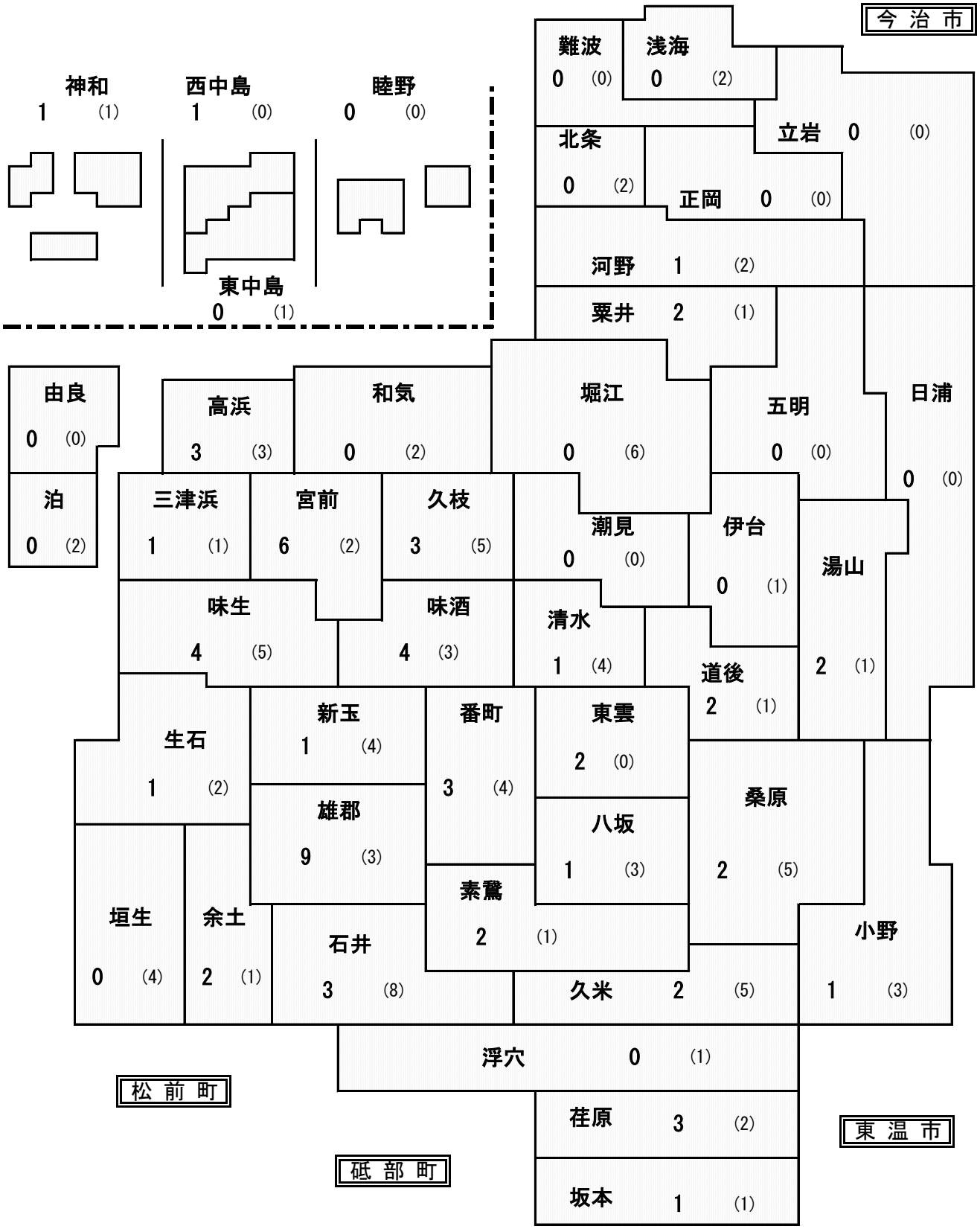
５　近年の火災状況

近年における上半期（１～６月）の火災状況は次のとおりです。

年 区分	平成24年	平成23年	平成22年	平成21年	平成20年	平均
火災件数 （件）	**64**	92	102	109	106	94.6
焼損棟数 （棟）	**58**	68	99	75	84	76.8
死者 （人）	**4**	2	3	6	5	4.0
負傷者 （人）	**9**	13	29	16	17	16.8
り災世帯数 （世帯）	**39**	46	62	72	60	55.8
り災人員 （人）	**92**	110	153	161	167	136.6
損害額 （千円）	**43,311**	83,050	112,692	96,302	166,299	100,330.8

6　地区別火災件数

（　）内は前年同期の火災件数



7　住宅火災警報器の奏功事例

住宅用火災警報器によって、早期に火災を発見し、初期消火に成功した事例や早期に避難できた事例を掲載しています。

住宅用火災警報器は、平成２３年６月１日からすべての住宅に取付けが必要になりました。

まだ、ご自宅に設置されていないご家庭は、ご家族の“安全・安心”のため、必ず取付けるようにしましょう。

【事例１】　　一般住宅（２階建て）

早朝、台所で鍋をコンロにかけて火をつけ、これを忘れて２階に上がり、寝室で寝ていたところ、隣人が住宅用火災警報器の警報音と換気扇からの煙に気付き、火災を発見しました。

当事者は、隣人がドアを叩く音で目覚め、１階に駆けつけると、鍋から１ｍ程度の炎が立ち上がっていたが、水道の水をかけ消火に成功しました。

この住宅には、１・２階に住宅用火災警報器が設置されていました。

※　住宅用火災警報器の警報音は、居住者に限らず、近隣の方が気付くこともあります。

【事例２】　　共同住宅（アパート・マンション）

深夜未明、就寝中に住宅用火災警報器の警報音で目が覚め、火災に気付き消火器で初期消火を試みたが消火できず、避難しました。

また、階下の住人も同時刻頃警報音に気付き、上階の火災を発見し、１１９番通報を行いました。

この住宅には、台所と寝室に住宅用火災警報器が設置されていました。

※　就寝中の火災は、気付くのに時間がかかります。住宅用火災警報器によって、早期の避難が可能になります。また、台所に設置することも有効です。

【事例３】　　一般住宅（２階建て）

２階の寝室にいたところ、２階階段室に設置している住宅用火災警報器の警報音に気付き、部屋の外に出ると煙が充満しており、１階に下りたところで火災を発見しました。

また、他の家族も警報音で火災に気付いており、消火活動を行いましたが、消火困難と判断し、家族全員避難しました。

※　寝室だけでなく、煙のとおり道となる階段室に取り付けた住宅用火災警報器も効果があります。

【事例４】　　一般住宅（２階建て）

台所のグリルで魚を焼いていることを忘れて、隣の部屋でテレビを見ていたところ、「火事です・火事です」という音声がなっているのに気付き、台所に戻ると煙が充満しており、急いでグリルのスイッチを切り消火しました。

同時刻頃、近所の人も、２階から出ている煙を発見し、玄関に行くと警報音がしていたので、住人を呼び出すとともに、消防に通報しました。

※　１１９番通報が早期にでき、消防隊も早く駆けつけることができます。

【事例５】　　共同住宅（アパート・マンション）

深夜、居住者が寝たばこをしながら寝付いてしまい、布団に引火しました。同じアパートに住む住人が、出火室からの住宅用火災警報器の警報音と煙に気付き、出火室へ向かい、燃えていた布団を屋外に引き出し、水道水で消火に成功しました。

※　早期の発見による初期消火は、被害の軽減に繋がります。

【事例６】　　共同住宅（アパート・マンション）
　昼間、共同住宅居住者が調理中であることを忘れ、鍋をコンロにかけたまま寝込んでしまい、放置した鍋が空焚き状態になり、煙が発生したことで警報器が感知し、近所の住人が警報音に気付き共同住宅の管理会社に通報しました。管理会社から１１９番通報があり、駆けつけた消防隊により早期に状況の確認ができました。
※　火災に繋がることをいち早く発見し、火災を未然に防ぐことができます。

【事例７】　　１階物品販売店舗・２階住宅
　深夜、１階販売店の従業員が鍋をコンロにかけたまま帰宅し、鍋が空焚き状態になりました。２階に通じる屋内階段に設置していた住宅用火災警報器の警報音を、２階に居住する大家さんが気付き１１９番通報し、駆けつけた消防隊により早期に状況の確認ができました。
　この建物には、店舗内・屋内階段にも警報器を設置していました。
※　住宅以外の用途にも住宅用火災警報器は有効です。

【事例８】　　一般住宅
　夕方、台所で鍋をコンロにかけ、火をつけたままで、犬の散歩に行っている間に、鍋が空焚き状態になりました。近所の住人が住宅用火災警報器の警報音で発見し、ガスの元栓を閉鎖しました。
※　住宅用火災警報器は、火災を早期に発見し、被害の拡大を防ぐことに有効です。

【事例９】　　一般住宅（２階建て）
　１階の居室にいたところ、２階で住宅用火災警報器の警報音が鳴ったため、上がってみるとクローゼット内部から炎が上がっていました。
　この家では住宅用火災警報器を２階の各部屋及び階段上部に設置しており、連動して鳴るものであったため早期に火災を発見できました。
※　連動式の住宅用火災警報器は、別の部屋にいても火災を早期に発見できます。

【事例１０】　　共同住宅（アパート・マンション）
　共同住宅居住者が、夕食後、やかんをコンロにかけたままリビングで飲酒、酩酊状態で寝ていたところ、やかんが空焚き状態になり、炎と煙が発生したことで警報器が感知し、警報音で居住者が目覚めて火事に気付き、共同住宅に備え付けの消火器で消火に成功しました。
※　住宅用火災警報器の警報音は、就寝中でも火災を早期に発見し、被害の拡大を防ぐことに有効です。

　住宅用火災警報器は、火災を早期に発見することで、「初期消火」「避難」「１１９番通報」が早期にでき、被害の軽減に役立ちますが、火災を防ぐことや、消火できるものではありません。
　日頃から、火気の取り扱いには十分注意し、火災予防を心がけましょう。

　住宅用火災警報器の設置場所などの詳しい情報は、松山市ホームページの「住宅用火災警報器」をご参照ください。
　http://www.city.matsuyama.ehime.jp/kurashi/bosai/sbbousai/sbkasaiyobo/juukeiki.html

救　急

第２　救急の概況

松山市における平成２４年上半期（１～６月）の救急出場件数は１１，０９５件、搬送人員は１０，２９１人で、前年に比較し出場件数・搬送人員ともに増加しています。
これは、一日平均６１．０件、２３分３７秒に１回の割合で救急車が出場し、市民５０人に１人の割合で搬送されたことになります。

１　救急出場件数・搬送人員の状況

事故種別では、急病・一般負傷・交通事故の順となっており、この３種別だけで、出場件数・搬送人員とも全体の約８６％を占めています。

（▲は減少）

区分		単位	平成24年	構成比（%）	平成23年	構成比（%）	増減
出場件数		件	11,095	100.0	10,808	100.0	287
内訳	火災		59	0.5	60	0.6	▲ 1
	自然		2	0.0	0	0.0	2
	水難		13	0.1	6	0.1	7
	交通		1,380	12.4	1,409	13.0	▲ 29
	労災		56	0.5	59	0.5	▲ 3
	運動		67	0.6	65	0.6	2
	一般		1,440	13.0	1,415	13.1	25
	加害		67	0.6	67	0.6	0
	自損		147	1.3	179	1.7	▲ 32
	急病		6,706	60.5	6,486	60.0	220
	転院		1,106	10.0	1,016	9.4	90
	その他		52	0.5	46	0.4	6
搬送件数		件	10,184	－	9,532	－	652
搬送人員		人	10,291	100.0	9,940	100.0	351
内訳	火災		7	0.1	10	0.1	▲ 3
	自然		2	0.0	0	0.0	2
	水難		5	0.0	3	0.0	2
	交通		1,343	13.1	1,341	13.5	2
	労災		56	0.5	58	0.6	▲ 2
	運動		72	0.7	67	0.7	5
	一般		1,355	13.2	1,321	13.3	34
	加害		66	0.6	59	0.6	7
	自損		109	1.1	136	1.3	▲ 27
	急病		6,171	60.0	5,916	59.5	255
	転院		1,094	10.6	1,012	10.2	82
	その他		11	0.1	17	0.2	▲ 6
出場平均（1日）		件	61.0		59.7		
出場間隔			23分37秒		24分07秒		

※１　出場平均については、前年比1日あたり1.3件増加しています。
※２　出場間隔については、前年比30秒短くなっています。

２　医療機関別搬送状況

医療機関への搬送状況は、救急医療機関９，１５２人（８８．９％）、その他の医療機関１，１３９人（１１．１％）、その他の場所０人となっており、救急医療機関への搬送が過半数を占めています。

事故種別等 / 告示の別等	急病	交通事故	一般負傷	その他	合計
救急医療機関	5,597	1,281	1,289	985	9,152
その他の医療機関	574	62	66	437	1,139
その他の場所	0	0	0	0	0
合計	6,171	1,343	1,355	1,422	10,291

※救急医療機関とは、厚生省令により救急告示を受けている医療機関のことである。

３　事故種別・傷病程度別搬送人員の状況

傷病程度別では、死亡１５４人（１．５％）、重症１，０１５人（９．９％）、中等症３，０４６人（２９．６％）、軽症６，０７５人（５９．０％）、その他１人（０．０％）となっており、軽症の占める割合が多いです。

	火災	自然	水難	交通	労災	運動	一般	加害	自損	急病	その他	合計
死亡	1	0	1	4	0	0	6	5	13	120	4	154
重症	1	1	0	41	3	1	125	1	7	483	352	1,015
中等症	0	0	2	178	20	15	355	6	28	1,754	688	3,046
軽症	5	1	2	1,120	33	56	869	54	61	3,813	61	6,075
その他	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1	0	1
合計	7	2	5	1,343	56	72	1,355	66	109	6,171	1,105	10,291

（傷病程度）

死亡　　初診時において、死亡が確認されたもの
重症　　傷病の程度が３週間以上の入院加療を必要とするもの
中等症　傷病の程度が入院を必要とするもので重症に至らないもの
軽症　　傷病の程度が入院を必要としないもの
その他　搬送したが医師の診断がないもの及び「その他の場所」へ搬送したもの

４　応急処置実施状況

救急隊員が行える救命処置（除細動、気道確保、静脈路確保、薬剤投与）の件数は、２４６件（前年２３３件）となっています。

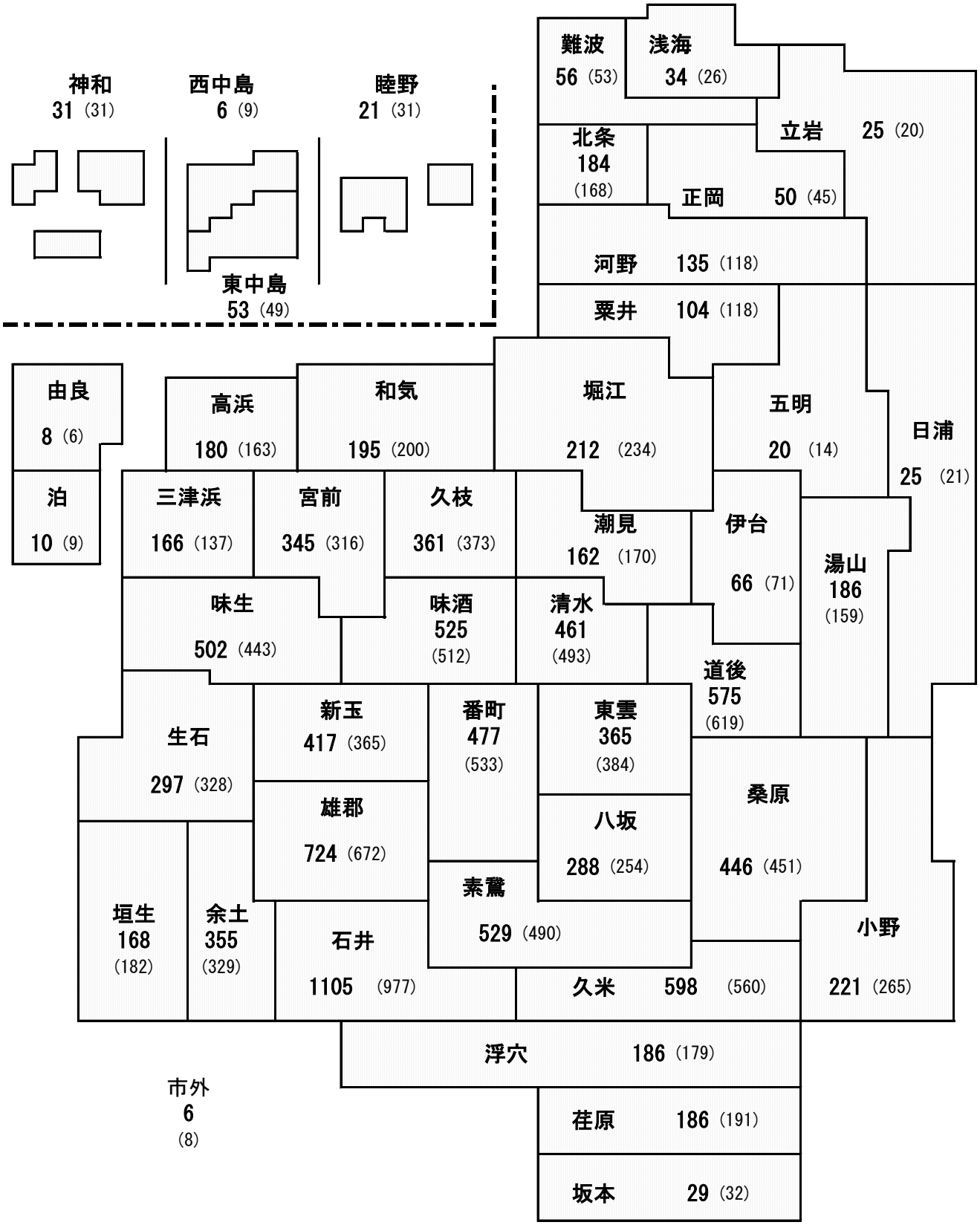
応急処置 ＼ 事故種別		急病	交通事故	一般負傷	その他	合計
	応急処置対象人員	6,055	1,259	1,287	1,384	9,985
	止血	21	62	99	32	214
	固定	25	285	147	40	497
	人工呼吸	21	1	4	4	30
Ⅱ	心マッサージ	8	0	2	1	11
Ⅱ	うち自動	1	0	0	0	1
Ⅱ	心肺蘇生	238	6	29	28	301
Ⅱ	うち自動	45	1	8	4	58
	酸素吸入	1,208	34	58	469	1,769
Ⅱ救	気道確保	290	9	34	54	387
Ⅱ救	うち経鼻エアウェイ	31	0	2	4	37
Ⅱ救	うち喉頭鏡・鉗子等	11	1	5	0	17
Ⅱ救	うちラリンゲアルマスク等	79	2	9	3	93
Ⅱ救	うち気管挿管	19	0	8	1	28
	保温	305	30	43	76	454
	被覆	32	381	351	81	845
Ⅱ	在宅療法継続	14	0	1	1	16
Ⅱ	ショックパンツ	0	0	0	0	0
Ⅱ	除細動	34	1	2	3	40
救	静脈路確保	60	2	6	4	72
救	薬剤投与	10	0	2	1	13
Ⅱ	血圧測定	5,583	1,178	1,128	1,258	9,147
Ⅱ	聴診器	725	61	71	116	973
Ⅱ	血中酸素飽和度の測定	5,787	1,214	1,193	1,332	9,526
Ⅱ	心電図	1,492	31	60	266	1,849
	その他	2,833	167	231	413	3,644
合計		18,686	3,462	3,461	4,179	29,788
拡大された応急処置等		13,872	2,491	2,487	2,992	21,842
（うち救命処置）		202	5	27	12	246

（注）　「Ⅱ」とは、救急Ⅱ課程修了者及び標準課程修了者が実施可能な処置
　　「救」とは、救急救命士が医師の指示により実施可能な救命処置
　　} 拡大された応急処置等

５　地区別救急発生状況

出場件数１１，０９５件　（前年１０，８０８件）

（　）内は前年同期の発生状況



平成24年　上半期　火災・救急統計

火災統計に関するお問合せは
松山市消防局予防課
TEL：（089）926-9247　　FAX：（089）926-9163
E-mail：sbyobou@city.matsuyama.ehime.jp

救急統計に関するお問合せは
松山市消防局警防課
TEL：（089）926-9227　　FAX：（089）926-9188
E-mail：sbkeibou@city.matsuyama.ehime.jp

※平成24年上半期火災救急統計は松山市のホームページにも掲載しています。
http://www.city.matsuyama.ehime.jp/kurashi/bosai/sbbousai/sbtoukei/toukei.html